

大豆研究の八学大女子ラグビー部

積極摂取、効果を検証



モナリザ賞の賞状を手にする八学大女子ラグビー部の田端ひかるさん(左)ら(同部提供)

フロントティア研究会(家森幸男理事長)が創設。

同部は、今年8月に三戸町の太子食品工業(工藤茂雄社長)と連携協定を結び、同社から提供された納豆や豆腐などの大豆食品を積極的に摂取している。部員らは、採尿データを蓄積し、女子アスリートの健康への影響などについての研究を進める予定で、一連の活動が評価された。

同日の授賞式には、工藤祐太郎監督と2年の田端ひかるさん、1年の山田優希美さんらが出席し、賞状を受けた。

田端さんは、入学時から大豆食品を食べ続けており、「体が大きくなり、筋力トレーニング後の回復も早くなった」と効果を実感。研究結果を来年の同フォーラムで報告する予定で、「しっかりデータを取って、研究の成果を示したい」と抱負を述べた。

工藤社長は取材に「自分たちの大豆食品が健康に役立つことがデータで分かればうれしい」と話していた。

(金漬千優希)

世界健康フォーラムモナリザ賞受賞

八戸

大豆食品がアスリートの体に与える影響について研究している八戸学院大女子ラグビー部が、食育や食環境の改善に寄与する取り組みなどを表彰する「世界健康フォーラム

モナリザ賞」を受賞した。11月29日に京都市内で行われた授賞式に出席した部員らは「研究を通して大豆食品の大切さを伝えたい」と意気込んでいた。

同賞は、健康科学の推進を目指す、NPO法人世界健康